第１４回網走市選択する未来会議発言要旨（令和５年８月２５日（金））

～第２期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

事務局から説明がございましたが、皆様の方から、ご意見等があればお願いしたいと思いますが、何かございませんか。

〇委員

国の政策に合わせて、市でも取り組みを進めているとの説明があったんだけども、最終的にどのようなことを望もうとして、どういう議論を期待して我々に説明したものなのかってことが今一つわからなかったってことが一つ。次に、二つ目は、基準に当てはめて比較をされているけど、基準っていうのは、いったいいかなる議論の中で出てきた基準なのか。これも項目によってずいぶん様々なようですし、本来基準っていうのは、あってないようなものと比較しているものもあって、それをクリアしたからいいのか、本来ではそれ以上のもっと大きな基準で進めなければいけないものあるように見受けられるので、その辺の議論もきっちりとしなくてはいけないと思われるのと。それから、細かく見ると言いたいことがたくさんあるんだけども、今、事務局からご説明された、これに付属するような資料付けてもらったらいいんでないかと思うんだよね。本来であればメモ取りする資料ぐらいは、メモ取りしないで資料として付けていただいて、その上で議論するっていう方がね。議論を大事にした方がいいと思うんだよね。このままやっていくと、資料の説明で終わっちゃうよね。わからないことを聞くだけで終わっちゃうんだけど、それが、この会議の目的としたものなのか、それともきちんと認識してもらった上で、議論を深めてもらいたいのか、理解だけしてもらえばいいのか、その辺をはっきり言ってもらった方が我々も忙しい中で来てるんで、そういう意味では、きちっとした設定の仕方をしてもらった方がいいんでないかと思うんですけど。

●事務局

貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。まちづくりは総合計画を柱として行っておりますが、総合計画自体は理念のようなものですので、地方創生の取り組みと合わせて具体的に掘り下げたもの、総合計画の戦略版として位置付けているものが「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」でございます。2 期の戦略につきましては、平成 30 年の値を基準として向こう５年間の動向を見定めながら目標を定め、集中して取り組みを進めています。ただ、委員がおっしゃられたように目標の設定が甘かったもの、あるいは高く置き過ぎたと感じられるものも散見されるところでございます。目標、内容、項目を定める際には、今日と同じようにこの会議の場で皆さんにご意見、議論をいただいておりますが、さらに精度を高め、素案作成時第 3 期の戦略を策定する際に、その段階でも皆様方からご意見をいただきながら、定めてまいりたいと考えております。また、A3 横の資料だけでは、なかなか読み取れないところもあり、さらに個別の資料が必要だという部分については、例えばどのような付属資料を添付することがより皆さんの理解が深まるものなのか、そういったところも研究をしながら、ここは報告だけの場ではなく、戦略の推進、評価の場でもありますので、

報告を聞きっぱなしということではなく、さまざま協議をしていただきたいと考えております。

○委員

目標値って設定されておりますけども、その目標値がどうして設定されたのかの説明が必要だと思いますし、なんでこの目標値になったのか、単なる数字合わせだけではない訳ですよね。その辺が具体的なものがないと、なかなか議論は深まらないと思います。

●事務局

目標値は、皆さんに議論をいただいて設定しておりますけども、次回以降、どういう考えによりその目標を定めたものなのかを資料の中に加えるよう工夫してまいります。

●議長

1ページ目、産業振興策の構築というところで、いくつか説明がございましたけれども、その中で、何か疑問点やコメント等がございましたら、よろしくお願いいたします。

○委員

今回のトップにありましたもち麦の件についてですね、栽培が未実施であり、栽培については調整中とのことですが、目標値としては、年間1,000tを目論んでらっしゃる。私明日のオープンキャンパスの方で、ランチの方を作らせてもらうことになっています。その中で必ず、オープンキャンパス年に何回かございますけれども、ご飯を使う時には、提供する時には、必ずもち麦を混ぜ込んで提供しています。しかも、リーフレットに、もち麦、米、魚、何々、どこどこ産、要するに網走産だとか、大空町産だとか書いて提供しているわけですね。そういう風に提供していくことがとても重要だと思いますし、あと私の夫が経営しているカフェなんかでも必ずご飯にはもち麦を入れています。1,000tを使用する目標をお持ちであるのであれば、例えば給食に取り入れるなど子どもたちにも市民の皆さんにももち麦っていうものがどんな機能性の良い食品であるかということを知ってもらえるような、そういう小さな機会の積み重ねが年間1,000tに繋がると思いますので、ご検討いただけたらと思います。機能性だけでなく、風味も良いものだと思うので、こちらの中でまだトライしたことがない方がございましたら、ぜひ召し上がってみてください。

○委員

少し活発な議論が出るように余計なことを言いますから。もち麦についてはね、今日JAが来ていないからなんともコメントできないけど、私門外漢だから。だけど市の動きを見ていると、もち麦に関してはいろいろあるんだよね。そういうのもむしろこういう委員さんにはきちんと説明をしておかないと、ここにお題目としてもち麦1,000t、産地化としていろいろ書いているけれど、もうすでにほぼ頓挫しつつあるっていうような、いろいろ問題があってうまくいっていないっていう状況な訳でしょ。そういうのも含めて、何に問題があって、何をどうしないといけないのか、どういう視点で我々は議論をしなくてはいけないのかっていうことをね。水産の話が全く出てこないことが私個人的には非常に不満なんだけど、まぁまぁそれはそれとしてね、そういうことも含めてきちんと議論をしないと、やっぱり皆さんせっかく来ているのに何のために来ているのかわかんないって感じになるんでないの。そう

いう意味も込めてさっき少し話させてもらったんだけど。

●事務局

もち麦は、なかなか詳細の説明が難しいんですけれども、一つには農家さんと JA との契約、あるいは小麦を買い取ってくださる企業との契約、さまざまな要素があると考えております。企業の経営活動や経営方針にも関係する内容かと思いますので、今後、どこまで詳細に状況をお示しできるか難しいところですけれども、なかなか計画どおりにいっていないという現状かと思います。こういった場でどこまでお示しできるかは慎重な判断が必要かと思いますけれども、可能な限り詳細にお示しできるように努めてまいります。

○委員

市の戦略としてもち麦を掲げて、1,000t、産地化だとかを揚げるだとすれば、そういうのはやっぱりちゃんと皆さん方に話した上で、問題は問題としてね、あるのかもしれないけれど、逆に言うとどうしてそんなものを市の目標に掲げたんだって話になっちゃうかもしれないけど、それも含めてきちんと皆さんに理解をしていただかないと困ると思うけどね。

○委員

それがないと議論はできないと思いますので、数値だけ見ても何も進みませんし、この年間の目標をどこにどういう風にするのかっていうことも当然あったと思いますので、中身も含めてそういう情報を提供していただかないといけないのかなと思いますので、次回以降よろしくお願いいたします。

○オブザーバー

全体的なお話になるのかもしれないですけど、この数値目標があって、数値を達成したしない、我々銀行の中でも、重点計画のようなものでよくやります。資料もはっきり言って同じようなものがある中で、わからなかったことが、例えば、プロモーションなどの戦略に関する予算があるのかないのかを含めたり、誰が主体となってやるのかがわからなかったものですから、例えば今のもち麦についてもそうですが、他のところもそうなんですが、誰が主体となってなぜできたのか、予算があったのかないのか、これから予算が付くのか、または何か協力を仰ぐのかといったことが分かれば、次回以降教えていただけると具体的に、例えば、私は銀行ですけども、どんなことができるのかなとか、場合によってはビジネスマッチングなどと絡めることができるのかなと思いました。まちの中で閉じ込めるのではなく、対外的な話し、人口流入っていうことも当然一つだと思いますし、観光の人の流入っていうことも一つだと思いますので、そういった議論ができればですね、何かもっと発展的な話しができるのかなと思いました。

○委員

このような議論ができる場ってあまりないですよね。網走市に住んで、いろいろな計画の策定に参加させていただきましたけど、その場その場で終わってしまうような会議ばかりで、出来上がったものが 5 年後、10 年後どうだったかというような見直しはあるけれど、結局ちゃんとしたまちづくりをしていこうっていう企画を、今の市役所のセクションである程度絵は描けるのかもしれないけど。でもそれぞれの今日お見えになっている金融やいろいろな組

織の人たちと一緒になって絵を描くっていう努力って今まであまりしてなかった。これ今網走はそうは言ってるけれど、最後のチャンスでしょ。今この３万人を切るか切らないか、市役所が街中に施設を建てようとして、再開発をバス会社も含めてどういう再開発にするのか、能取地区にバイオマス発電ができて、あの熱をどうするのかとか、我々の中でも議論をし始めているけれど、そういうのっていったいどうやってまちの中に還元していくのかとか、そういう視点の議論はあって然るべきで、そのうえで人口だとか出生率だとか例えば医療だとかいろんなものを交えてどういうまちづくりにしていくんだっていう方向性が出てくるんだと思う。そういうものをきちんとやれるような仕組みにしていかないと、さっとやろうとすると簡単にできるけど、わかりましたで、意見ありませんで終わっちゃって。なんとなく役所の中で紙だけが動いたってだけで、我々もなんとなく時間を使ったっていう感じで終わっちゃうんだけど。もうそろそろそういう時期でもないし、皆さんもそんなつもりで出てきていないと思う。会議の持ち方や狙いどころも含めて、きちっとやった方がいいような気がするけどね。嫌味じゃなく、期待して言ってるんだけどね。

●事務局

目標や取り組み方針を定める段階から、様々な意見をいただきながら、進めてきておりますけれども、さらに今後深めて、例えば素案を作る段階から、関係団体と意見交換をして設定していくなどのような工夫、取り組みを考えてまいります。

〇委員

多くの人が関われるような形でですね、そういうものがないとなかなか進まないと思いますので。

就職率というのは、どういった計算なのですか。

●事務局

分母が高校卒業後、就職した人の数です。分子がその内、網走市内に就職した人です。

〇委員

半分が市内に就職したということですね。残りの半分は、どこら辺なのでしょうか。

●事務局

オホーツク管内が多いですね。あとは道内、一部道外という方もいらっしゃいます。就職者数 80 名のうち、市内就職 42 名となっております。

〇委員

目標値が 62%ということは、もっと市内に就職してほしいということですね。どうして網走以外に就職したのかなどのようなアンケートはやっていないのでしょうか。

●事務局

卒業後を追いかけるのが難しく、アンケートは実施しておりません。市内の就職者数を増やすため、今年から新たに、市内に就職した方に奨励金を差し上げるといった支援を始めているところでございます。

○委員

JA、漁協、信金が一番受け皿として大きいと思うんだけど、子どもの数が絶対的に減っていますよね。今の桂陽の3年生は120人で、1年生は80人ちょっとだと思うので、2年後市内に就職する高校生がほとんどいないんじゃないかっていうお話を高校から聞いているんですけど、高校生の問題もあると思いますが、雇用する側、市役所を除くと農協、漁協、信金が多いと思うんですけど、子どもさんの数をもう少し地元に目を向けていただけると、子どものためにはなるけれど、事業者側にとってもありがたいと思っています。

○委員

子どもが地元にいれば、親の介護を含めて、だいぶん違ってくると思うんだよね。うちも地元で確保することは難しくなってきてるんだけど、そういう視点はあるよなという議論は盛んにしてるんだよね。大学を卒業した人がうちの組合を受けていただくとか、そういう取り組みをしている。そういうことを市として考えたらいいと思う。

●事務局

高校生のうちから地元に目を向けて、市内に就職してもらえるよう、早い段階から企業説明会を始めるといった取り組みを始めております。そういった一つ一つの取り組みを地道に継続することが、最終的に結果に結びつくのではないかと。委員がおっしゃったような、大学を卒業した後、もう一度網走に戻っていただけるような取り組みも必要だろうと考えております。

○委員

U・I・Jターンの推進で、地域おこし協力隊が1人定住したっていうのは、その項目しかないっていうのは寂しいような気がするよね。もう少し幅広に。もう少しあるのではないかなと思うんだよね。

●事務局

そのための取り組みはあるのですが、その取り組みによって戻ったものか否かを判定できない、抽出できない、指標として示せるものがない状況です。転入してきた人、一人一人の動きを調べなければ、なかなか指標として持てないのが実態です。

○委員

空き家を活用して、夏の間に本州から来てもらって、1週間、１０日の移住をしてもらうような取り組みをやってるよね。そういう人達が定住したっていう情報は、どこにでてくるの。

●事務局

戦略の指標の中には出てきません。

○委員

数値化が難しくても、どういうことをやっているかという項目を出すだけでもよいのではないでしょうか。

○委員

空いてる市営住宅を開放して、受け入れて、網走を見てもらうという事業はあるよね。それで定住するって人はいないの。予算は付いてるの。

●事務局

お試し暮らしというものがありますが、今までに定住された方はおりません。お試し暮らしは、予算がかからないもので、短期でお住まいになる方はいるんですが、移住に結びついた方はいらっしゃらないです。

○委員

積極的に取り組みを行って、定住を増やしている地域もあるんだよね。制度だけ作って、積極的にやらないで、観光で来て、ホテルがないから、今年はあの地域に泊まりに行く。来年は別の地域に行くというような利用をしている人もいるのを知っている。悪用されないように、定住してもらえるようにやらないと、ただのポーズになってしまう。そういうことの積み重ねをしていかないと、U・I・J ターンの実現は難しいと思う。

○委員

定住にならなかったとしても、どうして定住にならなかったのかというようなアンケートは取っていないのでしょうか。

●事務局

退去時にアンケートは取りますが、もともと、移住意識が必ずしも高くない方が多いのが実際のところです。

○委員

何が足りなったのかというような具体的なことを書いてもらうとよいと思います。住もうという気持ちが多少あった可能性があったかもしれないが、実際に来て、そういう気持ちにならなかった。何かが足りないわけですよね。何が足りないかってことを知る作業は必要だと思います。

●事務局

問い合わせなどいただいた際に伺う限りでは、移住後に働く場所があるかどうかを気にされている方が多い印象です。

○委員

受け皿は、ある訳ですよね。それがどういう職種なのか伝えられていなかった、ちゃんと情報が提供されていなかったということがあるのかと思います。

●事務局

望む業種や待遇があるかどうか。マッチングの問題。現役世代を引っ張ってくるというのは、非常にハードルが高いと感じております。ネット回線を使って遠方でも仕事ができるというような環境の方、居住地に拘束されることなく仕事を続けられる環境の方でなければ難

しいだろうと考えています。

○委員

網走の人口が３万人を切ってくるといろいろな問題が出てくると思っている。乗組員にもインドネシアから入ってきましたからね。人口が保たれるというのは、どこをやるのか。4万５千、５万だのっていう、絵空事を描いたって、まちづくりにつながらないので、絶対３万台をキープするような戦略やサービスをやらないと、たぶんぼろぼろ落ちていくと思うよ。

●事務局

網走に限らず、ほかの町でも様々人口減少対策をやっていますが、なかなか東京への一極集中、北海道であれば札幌への集中、これがどうしても止まらない、歯止めが効かないという状況です。これをやれば網走に人が来るという、カンフル剤的な強力な政策はなかなか思い浮かびませんが、しかし、例えば子育てしやすいまち、生活しやすいまち、医療などが充実して安心して暮らせるまち、こういったような個々の取り組みの集大成が、住みたいまちという意識の醸成に繋がるものと思っております。まずは、そういったところを更に充実させて、取り組んでいく必要があるんだろうと思っております。

○委員

それこそ、どこでもやっていること、特徴のない、やった気にはなっても、実績として伴って来ないのだろう。

●事務局

そんな中でも、網走においては、日体大附属高等支援学校を誘致してきたところ。それによって、生徒、それから先生だけでも40～50人の雇用が生まれています。ユーラスエナジーによる風力発電ですとか、ウインドスマイルによるバイオマス発電、こういったところで20～30人といった従業員が増えている訳でございまして、企業誘致に伴う人口の増、産業の創出といったところも絡めていろいろやっていく必要があるんだろうと思っています。

ただ、これといった決定打、これをやれば人が来るよ、これをやれば賑わうよという決定打がなかなか見つからない状況の中で、網走市が持つ魅力、ポテンシャル、特性を活かしたまちづくり、何ができるかといったところでは、まだまだ知恵を絞っていかなきゃいけないと思っております。

○委員

網走市としてどういう方向にもっていきたいのか、産業なのか、観光なのか、そこの焦点がしぼれていないような気がするのですが。

●事務局

産業としては、一次産業、観光業が欠かせません。さらに商工業。すべてをバランスよくというところが理想ではありますが、おしなべて広く、いろいろなものに手を出した結果、全てが中途半端に終わるというのはよくある話で、振り切って何をやるべきなのか。そもそも振り切るべきなのか。ただ、振り切ってしまうと、反対側の分野が疎かになってしまうこともあるでしょうから、全てにおいてまんべんなく、あるいは何かに特化することで、まち

のキャラクターを明確にするか。難しいところです。

○委員

もっと若い人の意見を聞く、話し合う場があってもいいと思うんですけど。例えば、高校生、就職して、半分しか市内に留まらない訳ですよね。そういう子たちに話を聞く、就職希望の高校生を集めて、話しを聞くっていう機会もあってもいいんじゃないかな。逆に外部からこちらに来た高校生になぜここに来たかということも聞いていいんじゃないか。若い人の意見があまり取られていないように感じます。年齢がいった人は、これまでのことはご存じで、それはとても重要ですけども、その一方で若い人達が住まなければ、人は減っていく一方ですし、彼らは何を求めているのか。そういったことを情報として何か集める算段は必要かなと思います。

観光客 141 万人がどういう人たちが来たのかという情報もあるといいと思います。

●事務局

観光客 141 万人につきましては、コロナ禍前の令和元年度と比較いたしますと、90%くらいまで戻ってきている状況です。ただ、インバウントについては、先月末の段階でも令和元年度同月比で 67%に留まっておりますので、まだまだコロナ禍前に追い付いていない状況です。

いま、観光客のニーズや動線など、デジタル技術を用いた分析を始めたところで、こういった情報が蓄積されていく中で、どういった PR が効果的かなど、論理的な政策が形成されていくものと考えております。

○委員

観光客の世界でいくと、大型バスで来た人が食事するところがない。セントラルのような会議をやりながら、食事をするところがない。

●事務局

団体観光客の食事を受け入れられるところでいけば、国道沿いにありました海鮮市場さんがなくなったことなども大きなダメージだろうと思います。団体観光客がバスを横づけしてご飯を食べられるところがない現状です。30 人程度であれば対応可能なようですが。

○委員

それで、観光客を誘致する目標を作って、たくさん来てもらいたいって言っても、難しいよね。

●事務局

受け入れの環境整備は、並行して進めていく必要があると思っています。

○委員

観光客がどういう形態で来るのかという情報もあるといいと思います。141 万人のうち、どのくらいが団体、個人なのか。今後それがインバウンドにより団体が増えていくのか。そういった分析が必要なのかと思います。

●事務局

国内旅行客については、団体から個人へシフトしていると言われて久しいです。インバウンドについては団体が多いようですが、最近は個人で入って来られる方もいらっしゃいますので、団体と個人と両方に目を向けていかなければならないと思います。

○委員

そのあたりを見据えた戦略が必要だと思います。団体が時々しか来ないのであれば、やっていけないでしょうし。将来的な方向性として、網走に観光として来る人たちがどういう形態が今後予想されるのかという戦略も考えていかなければならないですね。そういった情報もあると、皆さんも意見を出しやすいかもしれないですね。

○委員

新しくこういうものができて、将来が楽しみだな、協力してみんなで大きくしていこうねっていうよりは、前こんな施設があって、あそこがなくなった、ここがなくなったっていうイメージの方が強くある、網走は。団体のお客さんにいろいろなものを提供する施設にはなんらかの助成があってもいいかもしれないね。そういうのがないと、景気的には無理だよね。そんなことを含めてやっていかないと、人も足りない、めんどくさい、将来的にも来るか来ないかわからないってんじゃやらない方がいいわってなっちゃうからマイナスの話になっちゃうよね。

○委員

目標値を決めたからって言ったってね、受け入れをどうするかということだと思うんだよね。観光協会もあるし、連盟もあるし、振興局にもあるし、市にもあるし、そういうところで観光対策をやってるはずなんだけども、それをそうやって観光客を増やすための受け入れ対策をやるのかって、まずそっちが示されない限り、議論できないよ。ましてや俺なんて中身がわからないんだから。委員になったからってこれに対してどう思いますかって聞かれたって、わかんないよ。体制、仕掛けづくりがわからない限り、なかなか言えないし、目標値を決めて、それに従って進むんだってことは、自治体がやることであって、それに我々がいろいろな協力をするとかなんであってね。そういったものが示されない限り、議論はすごく難しいと思うよ。そりゃ、来てほしいさ、それをどうやってやるのって、どこがどうやってやるんだって、どこが旗振るんだと、いろんな問題が絡むからね。これは全てのことなんだ、網走市の未来に関しての数値を出すのはいいよ。いいけども、実際問題、今大きな問題があるのはね、少子高齢化でしょう。人口減少でしょ。それを自治体として行政としてどういう体制でやるんだと示されない限り、目標値なんてできないよ。一番大きな問題はそこだと思うよ。それに対しての網走の未来はどうなんだと、これが見えない限り、議論しようがないと思うんだよ。そりゃ大きくしたいさ、コロナも収束してないしね、9 波だって来てるんだから。それに対して目標値を出すたって、難しい問題もあるし、だからその中でいくと、議論ってのはどうやって進めたらいいのか正直言って、前からやってるけど、すごく難しいよ。中に入っていけないんだから。入っていくためには相当な資料が必要だし、これを皆さんはトップとしてやってる訳だから、そんなことでこれに関われって言われたって、難しいよ。時間取られてるし。これだけで、10 何ページがあるんだよ。こんなもの項目を全て把握しながら、議論するたって、すごい難しいと思うな。こんなものやってられるかってのが正直本

音だよ。これは、市長ならね、英断で出来る。俺らは立場が違うもの。

○委員

その通りだけども、それぞれのセクションで選ばれてきてる訳だから、自分たちのそれぞれの立場から見た時にこれがどう見えるか、どうあるべきかっていう議論をして、それぞれの立場でどう関わりを持ってやれるのかっていうレベルでね。これ全部を漁組で何が関係あるのよってものがたくさんある。でもこの中の何点かについては、組合でもやれることはあるし、こうした方がいいって思うこともあるから、これはそれでそういう方向でいいんじゃない。ただ、今言ったようにこの資料だけで、議論しろっていうのは難しいし、説明要因として、企画の人だけでいいのっていうのもある。せっかくやるんだったら、農業、水産の担当者も出てこればいいし、何人かポイントとなる人たちが出てきて、補足をするとかさ。というのも大事だと思うけどね。受けてやる以上には、やれなくても、投げ捨てようということはしないけどもさ、せっかくやるならちゃんとした議論になるようにやった方がいいと思うけどな。

○委員

観光客入込客数だって、戻ると思うんだけども、キャパ的に増やせないでしょう。網走マラソンだって、実際泊まれてない、みんな北見から来るでしょう。どうやって飯食うって話だからさ。だからといって、ホテル街だって、個別でいうとこれ以上泊められない。中身をわかっているから、増やそうって言えない。コロナが邪魔した期間と、コロナが回復して、その期間に失った人的なものと、キャパからして、たぶん 200 万をだしているんだと思うけど、今ホテル数から戻るかもしれないけど、ホテルがなくなっているからできないよね。5 年前に建てた目標だから仕方ないんだけど。ホテルは満室にできないって言っているから。ご飯を作らないといけないから。我々の事業所の計画として、修正計画ってあるんだけど、たぶん役所にはそれがないんだろうと思うので、それは無理だと思うので、コロナと現実的なものとのギャップで、解離していることがよくわかるので、ただ実情として網走としてのキャパでは無理ですよね。この部分だけを見ても、次の時にとしか言いようがないです。

○委員

目標値を変えることはできなくても、現実的には、このくらいだという数値、資料に載せなくても、実際のところこのくらいって現実を見ながら議論していかないと、何もできない。そういう意味では、増やさなきゃいけないのか、増やすことは可能なのかっていうこともあるので、そういった情報もないと。せっかく議論するなら、意味のある議論にしたいと思いますので。

○委員

この会議は、年に何回やることになっているの。

●事務局

年に 1 回です。

○委員

毎年同じようなことをやってきたのですか。それは、すごくもったいない。結局これでやって、また同じようなことをやっても。この会議とは別のところで、この資料を議論する場はあるんですか。

●事務局

新しく戦略を改訂する時には、皆さんから意見をいただいて、修正しての繰り返しですので、複数回行っております。

○委員

それは、メンバーが替わってということですか。

●事務局

そうです。

○委員

そうすると、情報共有がされないで、個々の数値、目標値、積算した理由もわからずとなると、それが年に1回となると、やっただけってなりがちじゃないですか。年に1回なら、1回で、積算した根拠なりを説明してもらわないと、何にも先に進めないんじゃないかと思います。この会議のあり方について、検討した方がいいのかなって思います。

○委員

さっきも言ったように、資料を充実させてほしい。例えば、大空町から網走市の公共施設を利用した人の人数が475人、網走市の大空町の公共施設を利用した人の人数が1,808人って言ったけど、それには公園を利用した人などが入っているんだと思うんだけど、何にどう特化してすみ分けができているのか。近隣の町のすみ分けとして、例えば網走市はこういうものに充実して力をいれているけど、斜里町、小清水町、清里町、大空町は、逆にこういうところに力をいれている。お互いに連携しながら、お互いに利用し合うように。極端な話しをすると、全部のまちに美術館がなくてもいい訳でしょ。そういうのをこういう会議で話したものを、今度町長なり、市長なりが集まった中で。そういう議論が深まっていってもらえるような基本的な議論ができるような。ここならできると思うよ。そういうのがないと、首長が好きなものだけ食って、あとは知らないんだわ。だから、こういうことになる。人口も減っていくし。そんなことも含めてもっとしっかりとやったらいいと思うけどね。年に1回っておっしゃるけど、3回ぐらいにして、資料増やして。来年になったら忘れちゃうよね。今が変わり目だと思うよ。市役所ができて、この辺りがどうなるのかっていうことも含めて皆さん興味を持っていると思うし。市の跡地がどうなるのか。この1、2年で大きく変わろうとしているんだよね。市民の声っていうのもある程度耳に入れながら、青写真を描いていく仕事をしないと、たぶん企業だけの青写真だけではあんまりよくないじゃない。いろんなものを頭に入れて、絵を描くべきだと思うけどね。そういう意味では、ここではこういうものをベースに議論ができると思うけどね。たぶん企画にとっても大きな参考になると思うけどね。

例えば、まちの中に青団連っていうのがあるでしょう。そのような人たちがやることにも

う少し力を貸すとかっていうやり方もあるよね。割と漁業関係は、嫁さん来なくて困るってことは聞かないけど、農業の人からよくたくさん聞くよね。農業者に嫁さんほしいんだけど、出会いがない。もうちょっと、出会いの場創出についてもなんかやりようがあるような気がするよね。

●事務局

委員の感覚と私も一緒です。こういったイベントを行政が主体でやることは筋としてどうかと思っています。まちづくりの団体が自分たちで企画をしてやるものを、金銭面の支援なんですけど、行政が少し背中を押すというようなことをやってきております。過去には、青団連でやっていただいたことも。それから、LOVE あばしりという団体が最近では多くイベントをやってくださっております。

○委員

どうして漁業者はお嫁さんが見つかって、農業は見つかりにくいのでしょうか。

○委員

たぶん大変だからなんじゃないの。たぶん農業の方が楽なんじゃないかなって思うんだけどね。機械化がどんどん進んでいけば。実態がよくわかってなんじゃないの。うちのかみさんは、中標津だから、農業には嫁に行こうと思わなかったみたいなこと言ってたよ。何でよって言ったら、やっぱりその頃の農業って、大変だったっていうイメージがあったからじゃないの。だからって、漁業が楽できるって来た訳ではないとは思うけど。今でも、そういうイメージがあるんじゃないですかね。

●事務局

農業は、最近デジタル化ですとか、IT がだいぶ入ってまして、トラクターもですね、昔はパワステのない重たいトラクターを動かさなくてはいけないという大変さもあったり。今は GPS を使って、全自動操舵、一人でトラクター2 台を同時に走らすこともできるようになってきているようでして、大変なイメージがありますが、実際には昔ほどではないのだろうと思います。

○委員

実態を知らないってことも影響しているってことですね。

●事務局

根拠はありませんが、そういう推察もできるかなということです。

○委員

それでは、そういったことを発信するような機会、チャンスなんかを検討する。それは市ではないかもしれないですけど。なぜ来ないかを考えていかないと。

○委員

跡継ぎがいなくて、廃業っていうのが、今ものすごく多いからね。どんどんこれから増え

ていくから、これは一次産業だけではないと思うけどね。例えば、寿司屋さんにしてもさ、儲かっているのに何で辞めるのって、跡継ぎがいないからって。そういう意味では、出会いの場って大事だと思う。

大学で言うとね、大学は34年経過して、東京農業大学のあることによる地域貢献度っていうのを大学で30年の事業として出したんだよね。それは、我々も感謝しているし、その通りだと思う。東京農大の位置づけっていうのもね、もうちょっと市がきちんと評価しなおすっていうことをしないといけない。たぶん大学は40年には高校生ががばっと受験生が減って、200を超える大学がなくなると言われている。ひょっとしたら、東京農大がここからいなくなるっていう可能性も全くゼロではなくて。そうなったら、今、3万何千人の人口なんてものは、あっという間に大変なことになる。これは水産農業だけでなく、市内のいろんな居酒屋だとか含めて、若手の働き手がいなくなるっていう現状を踏まえた時に、東京農大の評価の仕方、何が出来るのかっていうことを含めて。もう30年過ぎたら、いろんなものが痛んでくる時期に入ってきてるから。それを市だけでやるのか、市以外のところでも応援をしてもらうのかとか、そういう大きな括りをつくってやらないと、この後5年、10年、20年後、農大ってどうあるべきか議論を農大の中でした時に、そろそろ施設も古くなるし、金も掛かるし、集約していくかって話になりかねないよ。そういう議論をそろそろして、まちにとってどうなのかっていう議論をしてかないとなんない時期に来てると思う。

●事務局

入学者定員の厳格化がされた時に、我々はオホーツクキャンパスが首都圏の大学ではなく、地域に根差した地方の大学だというスタンスで要望したところでございますけれども、残念ながら首都圏の大学としての位置付けということになって、定数の厳格化、オホーツクキャンパスにも網が被ったという経過がございます。これまでよりも学生確保に苦労するようになったと。オホーツクキャンパスは人気のある学部だと思うんですけどね。

○委員

今、文科省が農学系の大学、学部学科を増やそうとしているんですね。おそらく中央大、順天堂が農学系を増やそうとしているんですね。環境系でいくと、立教。いわゆる農大とバッティングするところが新たに大学、学部学科を作ろうとしています。他にも、地方の私学なんかも農学系を作ろうとしている。文科省もそれを少し推進しているんですね。農学系の学部学科を増やそうとしている動きがかなり出てきています。そうすると、農大も受験生が取られるだろうということで、いろいろ言われてきて、それがどういう影響が出るだろうかと、結構厳しく言われている部分もある。受験生確保が厳しくなってくるだろうと予測はしています。それをどうしていかなければならないかってことを我々も考えていかなければならないと思っています。高校生自体が確実に減っていくので。ただ、大学自体は決して減らそうとする動きはないので、どういう方向に行くのか。厳しい現実があるのは、確かです。

○委員

寒冷地農業のフィールドがあって、オホーツク海があって、寒冷地の一次産業と環境保全も含めていろいろ勉強できるのはここしかない。それは、優位性なので、それを上手にアピールして、できれば就職もしてもらい、定住もしてもらう。卒業生が観光に来てもらえるような仕組みを制度として作るとかね。もう少しやりようがあると思うけどね。そういう戦略

みたいなものを一つ一つについてきっちりと作っていかなければならないよね。

○委員

農大は、9割は道外。一方で、こちらに来たら、道内に就職したいっていう子もそれなりにいるんですね。ただ、受け皿がないっていうのと、北海道は活動の時期が遅いんですね。早い時期に就職活動を始めると、皆関東圏の実家に帰って、就職活動をして、そこで内定をもらったらそこに行こうかとなってしまうんですね。札幌も含めて就職活動が遅いんですね。ある程度決まってしまっていて、まぁいいかってなってしまう子もいます。網走、道内に残りたいって子は一定数います。ただ、なかなか希望通りにはいっていない。JAなんかに行く人もそれなりに毎年います。ただし、卒業生から聞いた話でいうと、JAに行ってもちゃんと教育してもらえていない。大学生ならわかるだろうっていう感じにやられてしまって、そこを辞めてしまうってことも多いです。

○委員

今、農大生で一番多いのは、市役所でしょう。

○委員

多くないですね。JA系が一番多いですね。

○委員

辞める率が高いっていうのも聞いている。

○委員

のほーんとしている所でうまく育ててくれないかなっていう思いもあったんですけどね。

○委員

今は簡単に辞めちゃうからね。2年目とか、3年目くらいに辞めるんだもの。

○委員

そういう問題もありますね。そういう子たちが、これからの世代出てくるんだと。じゃあその子たちをいかにここで働いてもらうかってことを、今までと違うっていう意識を持たなくてはいけないのかなって思いますね。

○委員

全道とか、全国の学力って毎年出るでしょう。これには全くではないけど、触れてないでしょう。下の話はこれはこれでいいんだけど、もうちょっとこういうものを掘り下げて、議論をしていかないと、単なる比較だけは済まない世界っていうのも一つあるよね。何を言いたいかっていうと、もう中学生ぐらいから札幌に子どもを出すとかっていう家庭は増えているからね。高校で札幌に出す方は、奥さんが札幌について行って、お父さんが単身で網走にいるとかちゅう世帯が最近耳にするよね。今はそういう時代になったんだな、網走でもね。意外だったんだよね。我々の世代でもよっぽど裕福な世帯はあったんですけどね。今はそうでなくてもそういう風になってきてるから。時代だよね。

○委員

網走にいることが不安だってこともその親にはあるのかもしれないですね。ここでの教育。全国平均よりだいぶん低い訳ですよね。道内でもオホーツクって低い方ですよね。

●事務局

道教委の話によれば、宗谷、オホーツク、日高はそんなに高い方ではないです。

○委員

小学校の先生と話をする機会があって、今学校にある図書の整備をちゃんとしてもらわないと、学力の向上は見込めないって話が出てきたんですね。何を言いたいかっていうと、学校にある図書自体が古すぎるって言うんですね。もっと最新の情報を得たものが入っていないと、子どもは本を読む機会を失っているんじゃないかって話が今回出てきたんですね。端的に言うと、ここ 2,3 日のテレビで言いだしているのは暑いからって北見の子どもは、図書館に駆け込んで、一生懸命本を読んでいるっていうのがテレビでやっていますよね。それは暑いからじゃなくて、常日頃から子どもたちがそういう学校で学習する機会が失っているんじゃないかなって。先生と話して感じたんですけど。その辺のことをちょっとどういうような形にしたらいいのかっていうのを検討する余地があるのではないかと思っているんです。今、全国学力テストの問題がありましたけど、全道レベルにいかないっていうのは、その辺にもあって、親が感じて子どもを、優秀な子は早く札幌に連れて行って、向こうの有名校に行かせてあげたいという親の心情というのはよくわかるので、その辺のこともお金をかけながら、もう少し地元で勉強できるような方法を考えてやる必要があるんではないのかと思っているんですけどね。どうでしょうか。

●事務局

読書活動が学力の向上に繋がるという意識を持って、読書感想文コンクールを継続してやっていたりですね、そこの取り組みについては力を入れてきております。図書数については、文科省が定める冊数はクリアしておりますが、あとは質の話。それから学校図書を使ってどのような勉強をするのか、どういう調べ物をする時にどういう本を見たらいいのかと言ったような専門的なアドバイスを送る司書。これは巡回ではありますが、網走市には 4 名を各学校巡回させながら、専門的に子どもたちに指導をするというような体制も整えております。そういった取り組みが花開くまで、多少時間は掛かるものかなとは思いますが、現場の学校の先生がそういった意見をお持ちだということは、教育委員会と共有してまいります。

○委員

目標値は、単なる平均以上となっているじゃないですか。どうすればそうなるか、現状どうして低いのかというようなことを議論としてされていない。

●事務局

教育委員会や現場の中ではしております。設問ごとに、どの正当率が高いのか、低いのか、それは文書読解力が足りないためなのか、情報解析力が低いためなのか、そのあたりの分析まで行っております。ただ、この統計自体が確か、学校ごとの指標を集合させただけだったように記憶しておりまして、例えば小規模校ですと、勉強が得意な子や苦手な子が一人いる

だけで率がだいぶ変わってしまいますので、この率だけで網走市全体の学力を正確に示すことは難しいのかなと思います。詳細な分析は、常に行っております。

○委員

安全・安心なインフラの構築の％っていうのは、頭が全然使えないんだけれども、これはこれで計画に則って進んでいるってことの理解でいいんでしょうかね。

●事務局

その通りです。

○委員

予算もあるだろうし、優先度もあるだろうから、それはそれでやっているんだとして。緊急告知の防災ラジオ普及率っていうのは、基準が 0 で、今 60％っていうのは、これもちょっとよくわからないけど、いずれにしたって、何十歳以上、60 歳以上なのか 70 歳なのか知らないけど、人口に対して一人一台、一世代一台なのかよくわからないけど、そういう目標でやってるんでしょ。うちはいらないから、いただいてないからこの％を下げているのかもしれないけど。医療機関だよね。医療機関が充実することは、皆望んでいるだろうから。こうやって見たら、無くなりそうな医療機関も結構あるよね。跡継ぎがいない。そういうのは、あともう何年かで見えているんだから、当然そういうものを頭に置いた上で、医療体制っていうのをきちんと構築しないと、ダメだということだよね。多分網走市がこのエリア全体の斜里とか、小清水とか、清里とかを含めた中での中核の医療基地となることで考えているんだろうから、だとすれば尚更だよね。

●事務局

おかげさまで、一次医療については、誘致活動、支援策もありまして、４つ新規開設をしていただいております。ただ、救急医療というところには結びつきませんので、そこは中核である、この地区でいうと網走厚生病院なんですが、ここへの支援も継続して必要だと思っております。最近ですと、血管造影装置や手術ロボットのような最新の機械を導入することで、その機械を使った研修希望などもあるや聞いております。思わぬところに効果が波及しているものだと感じているところで、そういったところでの支援も継続していく必要があるのだろうと考えております。

○委員

新しく開業する先生に対する助成、制度をやっておられるだろうけど、年齢制限はないの。高齢の先生に対しても助成するの。

●事務局

申し訳ございません。承知をしておりません。

○委員

何が言いたかったのかというとね、大きな病院を辞めて、自分で開業した。だけどもう年が 60、65 を過ぎている。5 年やそこら 10 年はいるかもしれないけども、その後いなくなる

っていうね。だから、もうちょっと 40 代とか、そういう絞り込みって必要なんじゃないかなって思うけどね。技術もあるだろうし、いろいろあるだろうからわかんないけど。そのためには子どもいれば、子どもの救急をちゃんとできるところじゃないと住まないかもしれないね。

○委員

どこバスの話なんですけど、どこバスをやることによって路線バスがなくなったっていう、実際に潮見なんかはそういう状況にあるんですよね。利用状況としては、非常に伸びていることが言えるんだけれども、それによって定期バスを今まで乗っていた人たちが果たして、どこバスに移行されたのかどうかっていうのはちょっと疑問に思っているんです。その辺の統計的なものがあるのかどうか。それと、どこバスっていうのは、俗に言う買い物バスみたいなものですから、夜の方の運行が非常に厳しいところがあるというか、運転手さんの関係があるんだと思うんですけど。最終的に何時までですか。

●事務局

最終受付が午後 4 時だったと記憶しております。

○委員

何が言いたいかというと、エコーセンターなんかで行事やってですね、見に来たり、公演を聴いたりした時に帰る足がないんです。そうするとタクシーってことになります。ところが、タクシーも運転手があまりいないから相当減っていますよね。聞いているのは、44 台あったのが、25 台だとかっていう話もあるんです。そうすると呼んでも来ない。そうするとですね、街にですね、歩いて来れない人はここに来て、イベントに来たいんですけど来れないっていう現象がある。その辺のこともですね、もう少しどこバスはやるのか、タクシーも増やしてくれって言ってもそう簡単な話ではないと思いますけど、足の確保っていうのは非常に大事だと思っているんです。さっき、言いそびれたんですけど、東京農大の学生さんと私、まちづくりの意見交換をやったんですね、菅原先生が特段の配慮をしてくれて、私どもとやった時に、やっぱり大学生から一番最初に出たのは、網走は交通の足がないとの指摘だったんです。それは、例えば朝一番で汽車に乗ろうと思っても、バスはない。それからタクシーを呼んでも、来ない。予約はできない。前日の予約は受けれないって言われて断られた。そうすると俺はどこに行ったらいいんでしょうねっていう話が出てきたんですね。確かにそうだと思った。そういった問題を一つずつ解決していかないと、やっぱりと東京農大の学生さん、寮ばっかりじゃなくて下宿って言うんですか、そういったところにいても大変な、やっぱり足の問題が一番大きいって話が、何人かから受けたんです。聞いているうちに、今言ったようなことがあって、これからそういった問題を解決してやらないと、網走のまちの印象は非常に悪い。網走ってのは、非常に不便だよね。っていう話になってこないのかって思ってるんですね。実際に今言いましたように夜の足の問題も一般市民にとっては相当苦痛みたいな。我々のところでは、まちづくりのところでは出ているんですね。その辺の解決をもう少し市も中に入って、一緒に解決する方法を考えていただきたいなというのは、私どもの考えの一つなんです。

●事務局

路線バスについては、通勤通学の時間帯に、朝と帰りは、ほぼ満席なんですけれども、中間の時間帯は空気を運んでいるだけという状況がございます。方向性としては、朝と夕方、利用者が集中する時には、大量輸送の路線バス。中間の時間帯については、バス停が多くて、きめ細かく走ることができるどこバス、ここで補完をしていこうというのが基本的な流れです。ただ、実証実験が終わって、令和5年度から正式に走り始めておりますけれども、運行エリア拡大の話、運行時間帯拡大の話、さらにバス停をもっと増やしましょう、料金をもっと下げましょうとなりますと、タクシーと変わらなくなって業界の圧迫につながるというところ。その辺のバランスが非常に難しいことだと思っております。今、委員がおっしゃったように路線バスの在り方をどうするのか、タクシーどうするのか、その間を埋めるどこバスでどのようにバランスを取っていくのかというところでは、公共交通全体の在り方として、どこバスでだけではなく、様々な議論が必要なものだと思っております。

○委員

だんだん、上に住んでいる人は、下に降りてきづらくなった。帰りは、タクシー呼んでもなかなか来ない。じゃあどうしよう、下に降りてくるのを止めようか。そういったこともやっぱり全体的には少しでも。例えば飲食店ね、夜の街には降りてこなくなる。そういうことがあれば、街全体に影響を及ぼしているんじゃないのかなって感じはしてるんですけどね。

●議長

いろいろな意見をいただきました。今後どういう感じで進めていくかっていうことをご検討いただいて、有意義なものにしていきたいと思います。皆さんにいただいた意見をまとめていただければと思います。皆さんも情報を提供していただければ、協力していただけると思いますので。それでは、この会議を閉めさせていただきます。

●事務局

この場に限らず、帰ってからお気づきの点などがございましたら、どんなことでも結構ですので、メールでもファックスでも電話でも結構でございます。随時、いつでもご意見を賜りますようお願いいたします。

○委員

この会議は、年に1回ということでいいのね。

●事務局

はい。皆さんから意見をいただきましたので、もう少し議論が深まるような資料の作り方など工夫しながら、回数についても今後、例えば1回目提示・説明をして、2回目で議論を深めてというような、そういうやり方も考えられると思いますので、進め方、お時間をいただくことになりますけど、一歩でも前に進めてまいりたいと考えております。

○委員

今日話した内容の議事録みたいなものはいただけるのかな。

●事務局

もちろんです。

●議長

いろいろ検討していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（以上）